

令和元年度 第2回野洲市総合計画審議会 議事録要旨

●日 時

令和元年10月3日(木) 14:00~16:20

●場 所

野洲市役所 3階 第1委員会室

●出席委員(委員区分毎・50音順)

1号委員:田中 勝也委員、新川 達郎委員、原田 小夜委員

2号委員:浅田 邦保委員、衛藤 信之委員、奥邨 武和委員、木村 靖委員、黒木 稔委員、
柴原 喬委員、田淵 勝美委員、中塚 勝委員、苗村 明夫委員、野口 明委員、
羽田 慎二委員、林 かずみ委員、水島 章夫委員、山口 桂子委員、山中 清嗣委員、
山本 一郎委員、山本 博一委員

4号委員:井上 輝子委員、松井 佑太委員

●欠席委員(委員区分毎・50音順)

1号委員:大野 裕己委員

2号委員:入江 幸一委員、北村 真治委員、松沢 松治委員、望月 幸三委員

●事務局

竹中政策調整部長、吉田政策調整部次長、玉川企画調整課長補佐、
垂企画調整課主査、沼野企画調整課主事、松井企画調整課主事

●傍聴者

4名

1 開会

(1) 部長あいさつ

2 報告事項

(1) 第1回総合計画審議会における報告依頼事項について
—事務局より資料説明—

◇委員からの主な意見・質問

【委員】個別計画の体系図について、総合計画にできれば入れてほしい。市民活動団体数の推移については、1団体が複数分野を登録するので、実数ではないのではないか。

→(事務局)市民活動団体数は、主な分野として登録いただいた1分野のみを数えているので実数である。

【委員】成果指標の実績については、中間目標である平成25年度の目標値にも達していないものも多い。中間目標値を確認されたときに議論はなかったのか。

→(事務局)改訂版を作成したのが中間見直しの時期より早い時期となったこともあり、中間での指標の確認は行っていない。

【委員】成果指標の実績で、施策7の男女共同参画の推進については、男女共同参画が進んでいると思

わない市民の割合も各種審議会等委員の女性委員比率も、目標値には程遠い。女性の立場から非常に残念である。

【委員】市民活動団体数の推移が、市民活動が活発であるかどうかを測る指標に成り得るのかが疑問である。もっと詳細に割り出すべきではないか。また、コミュニティーセンターの利用については、各施設のキャパシティと利用率を出さないと人数や件数だけでは把握できないのではないか。

→（事務局）現在利用率というのは集計していないので、集計している利用件数と利用人数のみ提出させていただいた。来年度からは利用率を集計してもらうよう各コミセンには依頼予定である。

【委員】成果指標の傾向を見るにあたり、何%から何%の範囲だったら変わらないとする等、丁寧に基準を立てて評価した方がいい。

【委員】市街化区域が増えないと人口が増加しないと思うが、何が問題で増えないのか。

→（事務局）市街化区域を拡大するのは県の権限であり、令和2年度末に大津・湖南圏域で市街化区域の拡大が予定されていることから、現在県との協議を行っているところである。野洲は優良農地が非常に多く、転換するのにハードルが高い。

（2）今後のスケジュールについて

—事務局より資料説明—

◇委員からの主な意見・質問

【委員】第3回の全体会后に4回ほど専門部会を開き、再度全体会の予定となっているが、専門部会を2回ほど開催した結果を全体会に反映する必要性が出てくれば、流動的に全体会の開催も検討してほしい。

3 審議事項

（1）第2次野洲市総合計画 基本構想骨子案について

—事務局より資料説明—

◇委員からの主な意見・質問

【委員】健康は「子育て・教育・人権」にも「福祉・生活」にも入ってくる部分である。また、地域包括ケアについては、高齢者のことを考えているのか、全世代型の包括ケアも含めて考えていくのか。

→（事務局）地域包括ケアについては広い意味での包括ケアというように認識している。各施策にまたがるようなものは横串を刺すような構成とすることも考えられる。

【委員】市民意向調査の自由意見にあがっていた、子育て中の医療の問題、教育レベルが低い、公園がない、などの課題を組み込みたい。子育て・教育と人権は分けたほうがいいのではないか。

【委員】構成として、野洲市の特性と課題が繋がらない。市民意向調査や他の調査の結果から問題が明らかになり、それを解決するための課題の設定をすれば分かりやすくなるのではないか。ま

た、住み続けたいと回答した人が70%であり高い水準であるとあるが、住み続けたくないと回答した人が6%いることの方を問題とするべきではないか。

【委員】人口減少がやはり一番大きな課題であると思う。野洲は通勤に便利なまちであるので、通勤する人に住んでもらえるよう、集中的にバスの便をよくして通勤する人のための地域とする、また、農業をしたい人はこういうところに移住してもらおう等、絶対ここに住めというわけではなくとも、そういうことを真剣に考える必要があるのではないか。

【委員】他所から転入してこられた若い方と話す中で、野洲市にはこれがないばかり言われる方があったが、若い人にとって魅力のあるまちじゃないと発展しないのではないか。住み続けたくない人がどんな意見を持っておられるのか、それを解決する方法を皆で考えればいいのではないか。

【委員】野洲で生まれた子どもが野洲で生活できる基盤を野洲市として考えないといけないのではないか。若い人が留まる形を考えていかないといけない。

【委員】今出たようないろいろな意見は市民意向調査の自由記述のところにもほとんど書いてある。できれば委員の方も読んでいただければ。

【委員】琵琶湖に面しているまちであるので、課題として琵琶湖の保全も出してほしい。

【委員】入管法の改正で、外国人がこれから増えていくと思う。外国人と共生できるまちをめざしていかないといけないのではないか。

【委員】今後IoTやAIの進化で市民の生活が急激に変化する。大きく社会が変革するため読み取れないところもたくさんあるが、そういうものに対応できる計画というのを考えておかないといけない。

【委員】合併以降のまちづくりが進んでいないところがあるのではないか。旧野洲町民、旧中主町民で意識が違うところがあるのではないか。

【委員】市役所が旧野洲町役場の場所であるのも問題ではないか。まちの中心にある方がいいのではないか。

【委員】分庁舎にあった機能もいつの間にか集約されてしまっている。20歳の若い人も、中主と野洲が分断されてほったらかしにされている気がすると言っている。総合計画の中で何かしらを策定すべきと思う。

【委員】中主の方に湖の駅があってもいいのではないかと提案し、活動したことも一時あったが続かなかった。

【委員】地域活性化はまちづくりと不可分であり、人口増加とも密接に関係する。まちづくりをいろいろなステークホルダーで議論していくとなると、一言のキャッチコピーでは抽象的になってしまう。明確な像を示し、それを具体的にかつ簡潔に示していくことが重要ではないか。

【委員】10年先の将来のビジョンを描くにしても、30年、50年先ぐらいの姿を描いて、そこへ到達するための、その途中の10年として何をするかという計画として進んでいくべきではないか。

【委員】市街化区域が少ないという課題もあるが、一方で空き家も増えている。空き家や空き地の利用も考えるべきである。また、農業の発展については、やはり儲からないという現状があり、後継者が少なくなっている。国の施策も必要だが、市としてもそれを誘導してもらおうようにすると、野洲市はこれからももっと安定した発展が期待できるのではないか。

【委員】他の計画策定に関わる機会があるが、絵に描いた餅に終わってしまうことが多い。

【委員】魅力ある野洲市、誰もが住んでほしいまち、若い人がこれからも住み続けたいまちに向かって計画を立ててほしい。歴史も含め、野洲の良さをもっと知ってもらえば、もっと住み続けたいと思ってもらえるのではないかと思う。

【委員】野洲駅前の商業施設については、現状では商売が成り立たず需要がない。市民病院が駅前に建てば、それが起爆剤となって様子が変わり、商業施設の話も出てくるのではないか。

【委員】住み続けるという発想もあるが、一定のところに長く住まないで、いいところがあれば他所を選択して住むような世の中になるのではないか。そうすると、若者だけが住めるまちづくりをする、というような発想もあり得る。また、歴史については単なる観光資源でいいのか。市民にこの地域の歴史を知ってもらうような施策も必要となるのではないか。自治会活動については、最近自治会での支え合いを言われているが、役員の成り手がない中、自治会で消化しきれない状況である。市内でも自治会が休止した地域が出ており、今後拡大してくる可能性もある。

【委員】消防団等、ボランティアでやっているところは人材がない。今後人口が減っていく中で、住んでいる人間がどう動くようにするのかを考える必要がある。新たな取組も大切だが、今住んでいる市民にどういろんな形で関わってもらおうのかというのを考えていかないと、持続可能な地域社会はつくれないのではないか。

4. 閉会

次回の審議会は12月19日（木）午後2時から開催させていただく予定である。